

安全性と使いやすさを 実現した「帯鉄」専門メーカー

- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- オンリーワン技術
- メイドインジャパン
- 試作可小ロット
- 量産対応



若い顔ぶれも増えてきた従業員／鉄製結束バンド「帯鉄」

業務内容 鉄製結束バンド「帯鉄」で 重量物輸送の安全を確保

帯鋼、建材、非鉄金属の3事業部で構成され、帯鋼事業部は重量物梱包用の鉄製結束バンド「帯鉄」を製造し、全社売り上げの60%強を占める。重量が1t〜30tの鋼材コイル、線材コイル、鉄板や鋼管、足場仮設部材などを梱包する。PP（ポリプロピレン）バンドや樹脂バンドでは輸送中に破断し事故につながる懸念もあり、帯鉄結束は輸送中の安全を守る。

建材事業部は「ヨド物置」、「イナバ物置」の二次代理店として、設置工事を含めたサービスをを行う。非鉄金属事業部は99.9%の亜鉛インゴットを近隣の線材メーカーに卸す。

強み 「帯鉄」全商品のバリを除去し、 作業効率と安全性を向上

「帯鉄」は幅1,000mm、厚さ0.4mm〜1.2mmの鋼材原料を9.5mm〜32mm幅まで、6種類に連続切断スリット作業を行って製造する。スリット工程で刃物が入った切断面に「バリ」という鋭利なとげが毛羽立ち、梱包作業者の手を傷つけるため、慎重な取り扱いが必要となり、作業効率を悪化させていた。

当初から独自のラウンドエッジ加工によって、バリを除去した「帯鉄」を提供して作業効率と安全性を向上し、全商品品のラウンドエッジ化を実現した。さらに「青硬」という帯鉄規格では、IH（誘導加熱）装置によるブルーイング処理（防錆熱処理）によって、環境負荷物質含有ゼロを実現した。

独自技術 ラウンドエッジ加工で 10分の1の低価格を実現

「帯鉄」のエッジ部分を丸く成形するラウンドエッジ加工を、従来の10分の1という低価格

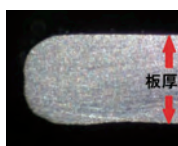
格でできる製造ラインを持つ。従来は高額な交換部品や設備の定期点検にコストがかかり、ラウンド形状の不備によるクレーム処理などに時間を取られていた。独自の製造方法によってコストを低減したうえ、専門メーカーとして35年の経験を持つ営業担当者が、安全・品質・生産性に関するトータルコストダウンを提案し、顧客のニーズに応える。

また海外から誘導加熱装置を導入し、ブルーイング処理によって業界では初めて鉛フリーの「帯鉄」を提供し、社員の健康管理にも配慮する。

今後の展望 鉛フリー化で輸出拡大、 海外進出も計画

今後はホームページなどを活用し、「帯鉄」は安全という商品PRに力を入れる。特にラウンドエッジ加工に関しては、「帯鉄」にとどまらず、バリ取りが必要なきさまざまな製品や部材に活用範囲を広げるよう技術開発を進める。また鉛フリーなど高品質な特長を生かして、東南アジア向けなどを中心に、2%程度にとどまる輸出事業を拡大する。

さらに2〜3年後には製造ラインを設置し海外での生産も計画する。平成28年末にはスリッターラインを導入し設備改造にも取り組んだ。誘導加熱装置の導入などで、社員の職場の環境を改善し、工場作業者の平均年齢が、5年前と比較して約10歳若返った。



エッジ部分を丸く成形するラウンドエッジ加工



海外から導入した誘導加熱装置

当社の歴史



昭和33年に再生亜鉛業で創業しました。重量物の梱包に使用する鉄製結束バンド「帯鉄」の専門メーカーです。安全と使いやすさに特化し、全商品にエッジ部分を丸く成形するラウンドエッジ加工を施す技術確立しました。帯鉄だけでなく、さまざまなものにラウンドエッジの活用を検討しています。

えんしょう
代表取締役社長 **延生 和巳さん**

<http://www.ensho.co.jp/>

主な事業内容

重量物の結束に使用する鉄製結束バンド「帯鉄」製造メーカー

主な取引先(納入先)

高炉メーカー、鋼管メーカー、線材メーカー

- 住所 〒597-0062 貝塚市澤1387
- TEL 072-432-4411
- FAX 072-432-6207
- 創業 昭和33年1月
- 設立 昭和36年5月
- 資本金 4,800万円
- 従業員 21名

大阪28 ISO 9001